【大阪府】

追手門学院大手前高等学校

生徒会

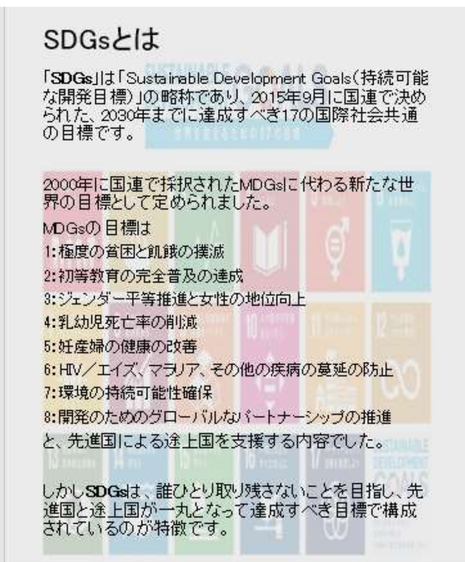
高校生ボランティア・アワード2023

「SDGsの取り組みをひろめる」

～身近なところからはじめる～

生徒会が主体となって、身近なところからできるSDGsの取り組みをひろめる活動を行いました。

中でも食品ロスを減らすために、JAや和菓子店ともコラボして、廃棄される食品を製品として再利用する企画を考案し、学校にも幅を広げて全校生徒でSDGsについて考える機会を設けました。



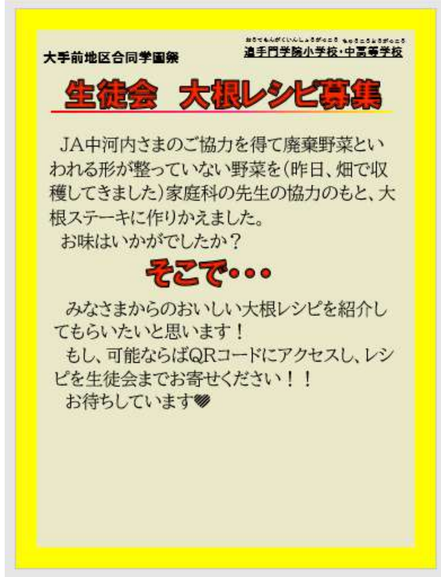
「生徒会から学校全体へ」

～活動をさらにひろめてSDGsに取り組む

生徒会だけの企画とするのではなく、学校全体でSDGsに取り組めるよう、工夫を凝らしたポスターを作成し、生徒会の取り組みを学校全体にひろめた。

また、家庭科の先生と地域のJAと生徒会がコラボして、家庭科の授業を生徒がコーディネートする取り組みをしました。様々な人の助けを借りながら作り上げた企画だからこそ、多くの生徒が主体的に参加してくれました。

生徒会の企画にとどまらず、学校の一人ひとりが自分にできることを見つけるきっかけになりました。



「生徒主体」となって考え行動することの大切さ

～学校の授業と地域をつなげる～

SDGsの食をテーマにまず、身近にある「もったいない」を調べ、ピックアップしました。

調べていく中で農作物で形に不備があったり、規格に適さない大きさ、傷があるなどで売り物にならない農作物が、そのまま畑に捨てられる現状を知りました。

そこで農協（JA）に生徒自らでアポイントメントをとり、現状を調査しました。収穫作業をお手伝いさせていただいたうえで、どのような野菜が畑に置き去りになるかを体験し、出荷と廃棄の現状を自分たちの目で見て知ることができました。

その後、自分たちで話し合い、そのような農作物をどうしたらお菓子作りの材料に作り替えれるかを試行錯誤し、和菓子店に協力を仰ぎ、商品として開発することで、廃棄野菜を有効活用するサイクルを提案しました。

自分たちの活動を広めるために学校全体に呼びかけ、協力してもらうことで、「食品ロス」問題について考え、取り組むきっかけになりました。

「1回のイベントではなく継続することを目指す」

SDGsの取り組みは「食品ロス」を減らすことではなく、多くの達成すべき目標があるため、一過性のものとして企画を終えるのではなく、今後もSDGsへの取り組みを様々な形で継承していきたいです。

そのために世の中に目を向け、学校の教育理念にある「独立自彊・社会有意」の信念のもと、一見関りの薄いようなことでも関係性を生み出し、単体での実施ではなく、様々ものと連動させた活動を行うことで、地域社会への貢献、生徒を主体とした学校を創造を目指し、それぞれが”自走”できる「生徒会」という集団を形成したいと考えています。

今後の具体的な活動として、学校の最寄り駅周辺で行われる日本3大祭りの天神祭へのボランティアの参加、生徒からの声を集めた企画の実施、学校行事の生徒主体の開催を目指します。

地域の方々との連携と学校での呼びかけなど、大きなプロジェクト達成には多くの人と協働することが重要だと理解する機会となりました。

ご協力いただいた様々な企業様
追手門学院大手前高等学校　生徒会